



YAMATO
MOBILITY & MFG.

証券コード 7886

**2027年3月期 第1四半期
決算短信 補足資料**

2026年8月13日

ヤマトモビリティ&Mfg.株式会社

2027年3月期 第1四半期実績



売上高 **1,847**百万円 営業利益 **▲34**百万円

- ・ 合成樹脂関連事業：中国子会社の株式譲渡により**セグメント黒字化**に成功
- ・ 物流機器関連事業：大口案件新規受注に成功し**セグメント増収増益**
- ・ E V 関連事業：2Q以降の受注に向けた商談を**継続中**
- ・ 販管費は、全社的な効率化を図り、**経費削減**を実現

売上高・利益ともに概ね順調に推移。合成樹脂関連事業、物流機器関連事業は構造改革の成果が顕在化
EV関連事業は、第2四半期以降でのEVコンバージョントラックの本格受注を目指した商談を継続中

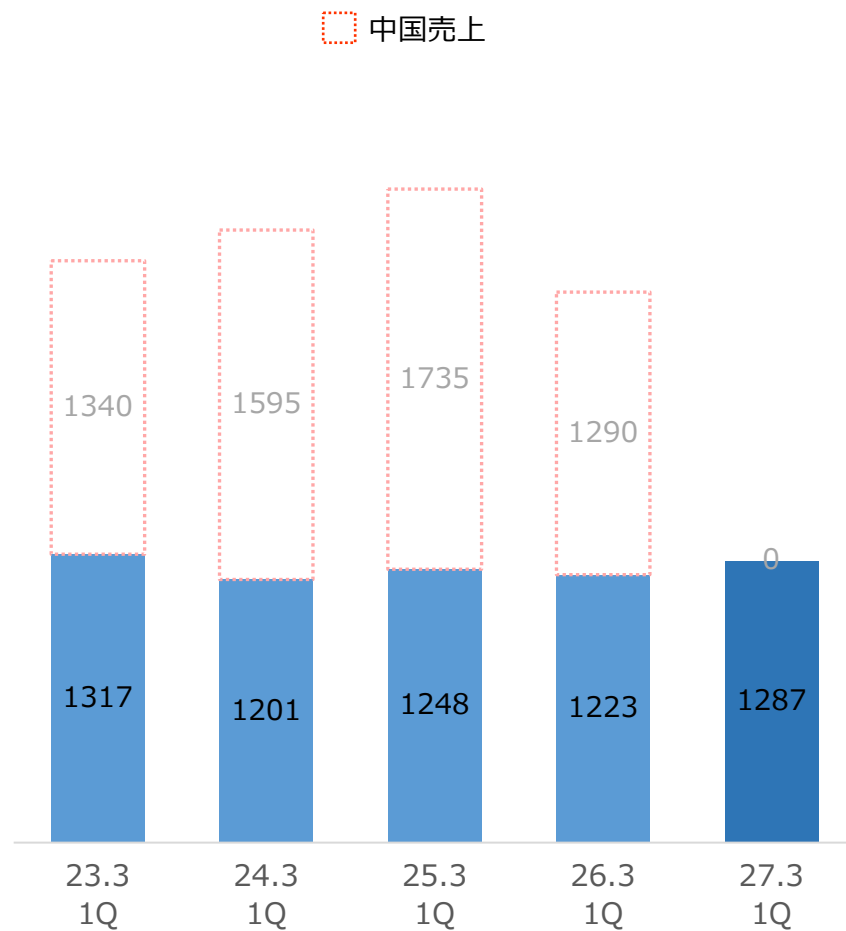
単位：百万円

	2026年3月期 第1四半期実績	2027年3月期 第1四半期		
		実績	前年増減	備考
売上高	2,991	1,847	▲1,144	中国子会社株式譲渡の影響により大幅減少
合成樹脂関連事業	2,513	1,287	▲1,226	
物流機器関連事業	477	549	72	原材料不足も継続、大口案件の受注に成功
EV関連事業	—	10	10	2Q以降の受注に向けた商談を継続中
売上総利益	358	327	▲31	
販管費	415	361	▲54	経費削減が奏功して前年同期比減
営業利益	▲56	▲34	22	
経常利益	▲75	▲78	▲3	
当期純利益（損失）	▲78	▲88	▲10	

国内事業において既存顧客からの受注拡大に加え、複数の新規案件を獲得するなど、事業拡大に向けた基盤強化が進展。

売上高は、中国子会社株式譲渡の影響により前年同期比で減少するも、セグメント利益の黒字化に成功。

合成樹脂関連事業（売上高：百万円）



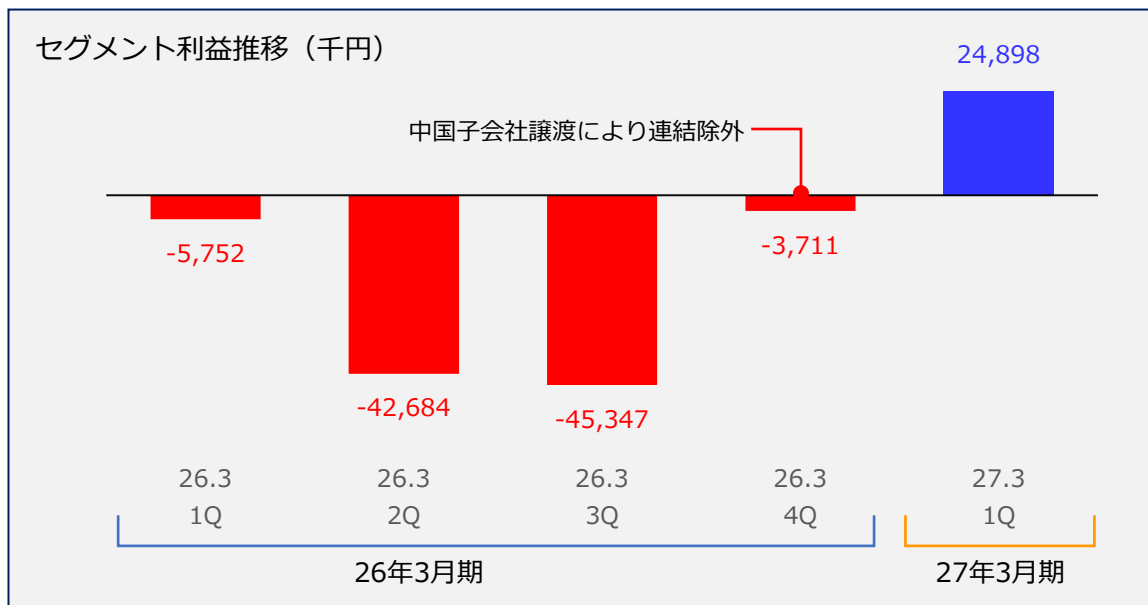
2027年3月期第1四半期 セグメントの状況

売上高の状況

- ・国内事業は堅調に推移：+109百万円（対前期比113%）
- ・海外事業においては、中国事業の売上は除外：影響額▲1,335百万円（前年対比）

利益面の状況

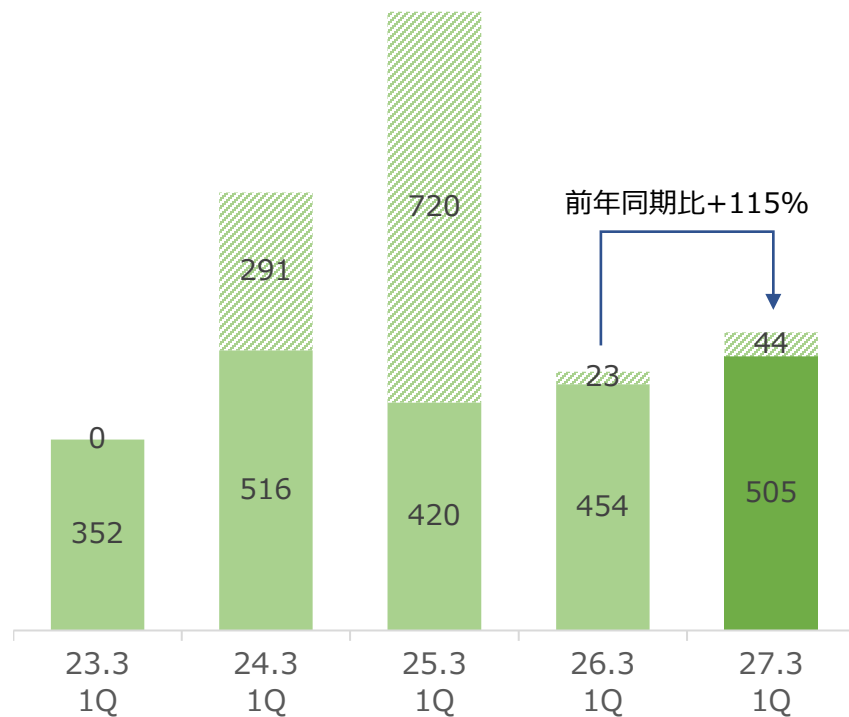
- ・前期に実施した中国子会社譲渡により収支改善
- ・前期の全四半期赤字から、上記施策により四半期黒字化を達成



顧客開拓および提案活動の強化が奏功し、一般顧客向けは対前年比111%と伸長、大口案件の受注にも成功し、全体では115%と収益基盤は着実に拡大。

物流機器関連事業（売上高：百万円）

■ 一般 ■ 大口



2027年3月期第1四半期 セグメントの状況

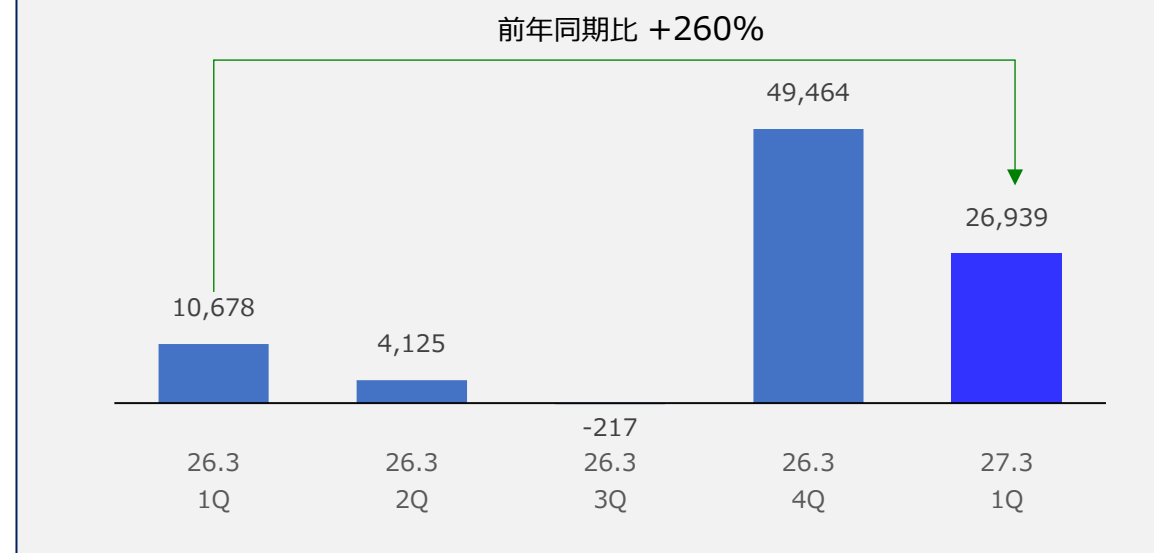
売上高の状況

- ・一般顧客案件の伸長（前年対比：+51百万円）
- ・大口案件の新規受注（前年対比：+21百万円）

利益面の状況

- ・売上増に伴う利益増（前年対比：260%）

セグメント利益推移（千円）



アトラス（ガソリン）およびキャンター2トンの改造車生産に向けた準備と、機会を捉えた販売促進活動を実施

EV関連事業（売上高：百万円）

23.3	24.3	25.3	26.3	27.3
1Q	1Q	1Q	1Q	1Q

10

2027年3月期第1四半期 セグメントの状況

売上高の状況

- ・機会を捉えた展示会の参加やメディア露出による、当社活動への認知度アップ
- ・ポテンシャル企業への試乗会などの積極的な販売促進活動の展開
- ・部品販売により売上を計上

利益面の状況

- ・EV関連事業への先行投資の継続（2027年度に向けての事業基盤構築）
- ・新商品開発、組織／体制整備と専門人員確保、宣伝広告費等

- ・アトラス（ガソリン）：試作初号車改造申請の認可を取得(6/5)。
- ・展示会活動の積極的な推進を継続（P15参照）
- ・メディア露出 2件
 - 1) 日刊工業新聞に鈴木CEOの寄稿記事が掲載（5/25）。
 - 2) AWK社との架装基本契約の締結に関してリリースを発行（6/23）。



AWK社との架装基本契約の締結

(百万円)

		2026年3月期末	2027年3月期 第1四半期末	増減額	主な増減要因
	流動資産	3,377	3,515	138	現金及び預金 +141 受取手形及び売掛金 +54 製品及び原材料 +95
	固定資産	1,757	1,750	▲7	
資産合計		5,135	5,265	130	
	流動負債	2,878	3,087	209	支払手形及び買掛金 +160 短期借入金 +102
	固定負債	1,686	1,643	▲43	長期借入金 ▲34
負債合計		4,565	4,730	165	
純資産合計		569	534	▲35	
負債純資産合計		5,135	5,265	130	

2027年3月期 通期計画と取り組み

売上高 **9,742**百万円 営業利益 **108**百万円

- ・ 上期（第2四半期）までは赤字も、EV関連事業が本格化する下期に黒字化を計画
- ・ EV関連事業の売上は、**第3四半期以降に本格化**する計画
- ・ 前期の中国子会社譲渡により売上減少も、**利益は改善**の見通し
- ・ 販管費は、物価高騰や人件費上昇を受けて上昇傾向
- ・ 中東情勢悪化の影響を受けた原材料不足に懸念も生産体制を維持

(百万円)

	2026年3月期		2027年3月期			
	2Q累計実績	通期実績	2Q累計計画	前年増減	通期計画	前年増減
売上高	5,983	9,730	3,681	▲2,302	9,742	12
合成樹脂関連事業	5,017	7,651	2,699	▲2,318	5,132	▲2,519
物流機器関連事業	931	2,050	859	▲72	2,238	188
EV関連事業	35	27	123	88	2,372	2,345
売上総利益	667	1,184	593	▲74	1,679	495
販管費	857	1,625	767	▲90	1,570	▲55

(百万円)

	2026年3月期		2027年3月期			
	2Q累計実績	通期実績	2Q累計計画	前年増減	通期計画	前年増減
営業利益	▲190	▲441	▲174	16	108	549
合成樹脂関連事業	▲48	▲49	18	66	54	103
物流機器関連事業	14	49	▲29	▲43	4	▲45
EV関連事業	▲156	▲440	▲163	▲7	50	490
経常利益	▲279	▲709	▲209	70	40	749
当期純利益（損失）	▲203	▲827	▲212	▲9	17	844

新規案件の確実な取り込みと、金型販売の強化、BtoCビジネスの伸長等により、売上・利益の拡大を図る

1. 新規受注案件の確実な立上げ

〈射出成形部門〉

自動車用機能部品/家庭用品

〈真空成型部門〉

大型製品の販売拡大/レジャー車両関連外装部品

2. 金型販売の強化

成形部門と金型部門の一体化による

ワンストップサービスの推進

3. 顧客拡大に向けた提案の推進

繊維強化樹脂+ミュセル成形複合品の提案

卓上小型射出成形機モールドロック®活用の提案

4. 事業規模の拡大

真空成型事業において、事業継承案件を通じて製造設備及び、顧客基盤を取得し事業規模の拡大を実現

5. B toCビジネスの伸長

通常射出成形と特殊成形を融合した
自社製品開発の継続と販売拡大

車中泊用簡単窓枠排熱ダクト（再生材を使用）

車中泊用にポータブルエアコンを効率的に活用するための車外吸排気ダクト



※取付イメージ

積極的な新製品開発による製品ラインナップ拡充を推進して、既存顧客の深化と新規顧客層の開拓を加速し売上拡大を図る
加えて、サステナブルニーズに対応した新サービスの展開を強化し、持続的成長基盤を構築

1. 新製品の開発：セキュリティカゴ車（本年10月頃上市予定）



商品・荷物の盗難防止 セキュリティカゴ車

（新製品・差別化製品）

- ・ 上下観音扉付ロールコンビテナー販売（今期より発売開始）
- ・ Wゲート付L型ロールコンビテナー拡販（前期比：130%）
- ・ 側面ガード兼用メッシュ棚付き6輪カートリニューアル（前期比：111%）

2. 高付加価値製品・新製品開発

お客様のご要望に対応した製品開発の継続

3. サステナブル関連サービスの充実

修理・レンタル・中古品・OUTLET販売などの推進

4. 勝てる販売スタイルの実現

ホームページやダイレクトメールなどのwebツール
活用した営業展開の強化

第1四半期に認知度の向上と量産体制・品質確保の取り組みを実施
現在商談活動進行中の大手候補企業からの受注獲得による売上拡大を図る

2026.6/10-11

JEMYシリーズの拡充とイベント出展による
ブランドと商品認知向上

展示会活用：電動モビリティ街づくり博に出展
ベルエナジー社との移動式電力システムの共同開発品の展示



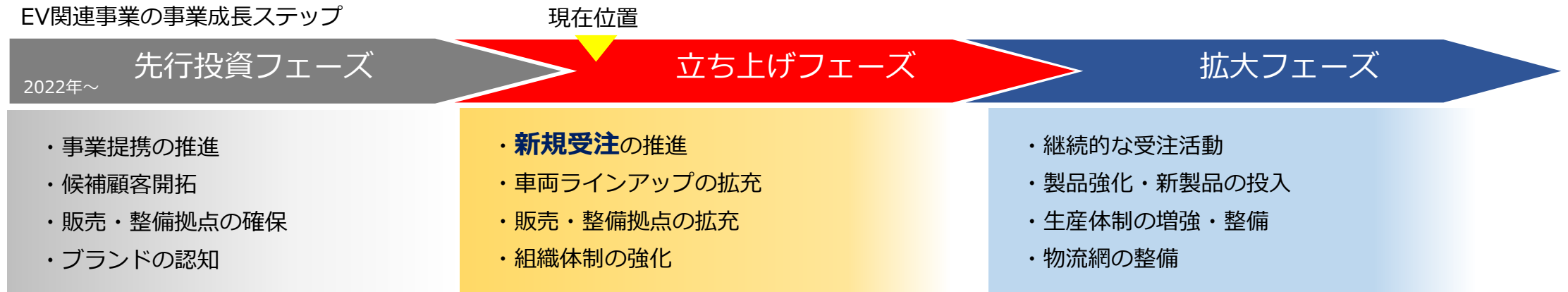
2026.7/6

アトラスの評価と日産車体グループとの提携による
量産体制と製造品質確保

開発完了の節目として「1000km走行確認」をおこなった
走行後の状態をオートワークス京都でおこない問題が無いことを確認



2022年から進めてきたEV関連事業のプロジェクトは、今期立ち上げを迎える
燃料価格高騰や補助金拡充の外部環境を追い風に、今期の垂直的な立ち上げを計画する



EV関連事業が立ち上げに向けた重要ポイント

- ・ 昨年度までに、**営業体制**や**生産体制**、**品質保証体制**等の土台を構築
- ・ 日産アトラスのEVコンバージョン追加による**普通免許対応車両**への市場ニーズ対応
- ・ 既に多くの商談を進めており、今期中の**受注・納品**を目指した販売活動を展開中
- ・ 2026年度もEVコンバージョンへの**補助金が継続適用**され、お客様の実質負担額が軽減可能

(補足) 上場維持の取り組み

当社株式は、東証スタンダード市場における2026年3月31日時点において「流通株式時価総額」基準への適合が確認できていないため、2026年4月1日付で東京証券取引所より監理銘柄（確認中）に指定されました。

東京証券取引所に対し上場維持基準の適合に向けた計画書を提出しており、計画期間の2027年3月期末までに上場維持基準を満たすべく各取組みを実行してまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 * 2026年3月31日現在	750人	9,179単位	7.45億円	56.5%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
適合状況	◎	◎	×	◎

* 当社の状況は、当社における試算数値を記入しております。正式には、以降発表する適時開示情報をご確認ください

<実施した取組み>

- ・4月1日 **役員持株会スタート**により、経営陣による上場維持へのコミット



本資料は、ヤマトモビリティ & Mfg.株式会社（以下、当社）に関する情報提供を目的としたものであり、国内外を問わず、いかなる有価証券、金融商品または取引に関する募集、投資の勧誘または売買の推奨を目的としたものではありません。本資料は、金融商品取引法またはその他の法令もしくは諸規則に基づく開示書類ではありません。投資のご検討にあたっては、投資家の皆様ご自身の判断で行うようお願いいたします。本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記載が含まれています。これらは、当社が本資料作成時点において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記載は、一定の前提および仮定に基づいており、また、当社の経営陣の判断または主観的な予想を含むものであり、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化、社会情勢の変化、他社の動向等の様々なリスクおよび不確実性により、将来において不正確であることが判明または将来において実現しないことがあります。したがって、当社の実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。本資料への掲載にあたっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性および確実性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください